

心を寄せ合って 道の台としての歩みを



婦人会ひなの会・鼓笛練習会 6月23日



▲女子青年のつどい

6月22日

ひきよせ

天理教夕張大教会
北海道岩見沢市9条西6丁目
〒068-0029 ☎0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
HP bariten.main.jp
yubaridai146@gmail.com

貴方への手紙 (305)

子供の頃に願っていたような自分に成っているかと言えぱどうでしょう？私は成っていないのです。

子供の時の夢などはもちろんどこかに行ってしまったが、青年になって描いたあるべき自分像にも成っていないのです。

皆さんはどうでしょうか？願っていたような自分に成っているのでしょうか？

私は目の前のことを追っているうちに気づいたら今の状態になっていました。現実には厳しいですね。

しかしそれが不幸せかといえどどうでしょう？生まれてきたことや、ずいぶん助けられてきたこと、ありがたいことが浮かびます。今はそれに気づくことができるので不満はありません。感謝が多いので不幸せではありません。ありがたいなあ！と思っています。

ひよつとしたらあなたもそうではないですか？

「今」を喜んで、その御守護に感謝して、助け合いの種まきをしていくならば神様は受け取ってくださいませ。

私は、信仰において大切なことは感謝、お掃除、種まきだと思っています。おつとめをすると感じます。心に定まります。生きる感謝を深く感じる。自分さえ良ければ良いという埃の心をお掃除する。お礼の種まきをする。

毎日自分が忘れず実行したら、お金に困らず、病いは遠ざかり、人間関係も良くなって、幸せを深く感じられるようになるのではないのでしょうか。

「火水風で育つ」

火は暖かさ。水は落ち着いた冷静さ。風は言葉や雰囲気。そこに人は育つ。火水風は自然の三要素であり、親神様の御守護ですね。それは生き物に不可欠な要素であり、命を支えて

くれています。だから私たちは火と水と風の心を生活に生かし、我が子や人様に育ってもらえるよう日々のおつとめに願いを込めます。

「声は肥え」と教えてくれたのは東中央大教会初代柏木庫治先生です。心に残る言葉です。人が育つにも声をかけることが必要。かけた言葉が相手にとってちょうど良い肥えになるためには程良いかげんが必要です。私は人が育つような言葉をかけているかどうか。なかなか難しいですね。失敗もしますが、今できることがある！と思っています。

夏になって子どもたちはお泊まり会や子供会、おちば帰りに元気な姿を見せてくれるでしょう。その姿から元気をもらって私たちも背筋を伸ばして歩きたいですね。

以前書きましたが覚えてますか？人が生き生き暮らすためにはきょうようときょうよくが必要。きょうようとは「今日用」があること。きょういくとは「今日行く」ところがあること。生きていく限りあなたは必要とされ、役割があるのです。暑さに負けず健やかに！

(7月8日記)

今後の予定

- 7月21日(日) 婦人会夕張支部・母親講座
- 7/26〜8/1 夕張団こどもおちばがえり団参
- 8月9日〜15日 学生生徒修養会 高校の部
- 8月20日(火) 婦人会・委員部長女鳴物勉強会
- 9月22日(日) 第31回 ひきよせ大会

六月月次祭の様

5月の末には史上最高記録を更新する地点が続出した北海道季節外れの暑さにぐったりした人も多かった。そのまま夏へと向かうかと思いきや、6月に入ると暑さは一息、雨の日もあり涼しい日が続いた。

15日も心地よい風が抜ける、過ぎしよい日となった。9時半より開扉献饌、祭文奏上。大教会長は祭文にて「私たち自身ができることがあることを思い、教会として信仰者として日々教祖の願われるたすけ一条の道を歩ませて頂きたい」と述べられた。その後座りづとめ・十二下りのてをどりが勇んで勤められた。

講話には3名が指名され、まず岩佐克子・祝豊分教会長が立



ち「上級であり、夫の志加ノ谷の前会長が本日参拝させて頂きました。こうして来られたのも、皆様方の温かいお心がけがあつ

ての事と致します。本日はここまでに至った、志加ノ谷分教会の家族の歩みをお話させて頂きます。

前会長がまだ会長だった5年前頃から、車の運転が辛い、と言うようになりました。それから『なんか老人性うつになりそうだ』と言うようになり、少しずつ酒量が増えて昼も飲み、ついに朝も飲むようになって、アルコール依存症のような状態になってました。

先頃の大教会120周年において、前会長も大事な役に与り、体調が優れないながらも精一杯務めました。翌年、長男が四代会長のお許しを戴き、11月に無事奉告祭を終えました。先代が存命のまま会長を交代するのは志加ノ谷では初めての事で、教会として非常に有難い事でした。その喜びを胸に前会長として再出発をするはずだったのですが、心身ともに少しずつ弱り、そのお役目を果たすことが困難になっていきました。

四代会長就任後、会長・前会長・私の3人で生活していましたが、それぞれが御用で動き、私も教会を預かる立場から家を空ける事がありました。数日家を空けて久々に帰ると、前会長は人が変わったような様子でありました。適量を超えたお酒に、

たしなめるこちらの言葉は日ごと切実になっていきました。そんな中、昨年の12月、体調を崩していた次男が会社を退職して教会に戻り、4人での生活となりました。前会長は酒量をセーブできず、足元が覚束なくなつて、一人に出来ず誰かが付いていなければならぬ状態になりました。そんな生活の中で家族それぞれがストレスを少しずつ蓄積して、全員が身上になつてしまふ寸前にまでなつていたのです。

そうした状況に会長が『家族会議をさせて頂きましょう』と声を挙げました。家族一人ひとりが、今何を思っているのか、家族に願っている事、反省したい事、どんな目標を持ちたいかなどを話し合いました。特に会長は前会長に対して、今何をしたいか、何が嫌なのか、どうして欲しいのか、という事をゆつくりと心の内を解きほぐすように聞きました。前会長は、家族揃って朝づとめを勤めたい、という事と、家族揃ってご飯を食べたい、という事を言いました。追い詰められていた前会長の思い、また家族がそれぞれ抱いていた思いを互いに出す事が出来た、貴重な時間となりました。

おさしづに『さあさあ皆んなさしづに』が肝心やで』

(おさしづ・明治21年11月11日)とあります。会長の一言から、談じ合う事の大切さを、私達家族は実感させられました。初めて家族会議をした日から、

初めは前会長は前向きになつていきました。酒の管理を私に任せ、歩行練習から散歩を始め、摂らなかつた食事も食べるようになりました。当日の体調次第であつた月次祭の参拝も、おつとめを着けてしっかりと勤められるようになりました。そしてどんな場面でも『ありがたいなあ』と口にするようになっていきました。そして今日の参拝に至つたのです。大変な日々の中でもご守護を感じる事があつて、有難く思つております。

何があつても家族一人ひとりが親の教えに縋つて、ご恩報じの心で通つて参りたいと思ひます。心得違ひがあれば、また会長を芯に談じ合いをして、心を建て替えながら進みたいと思つていきます」と話した。

次に吉澤道広・神江分教会長



が壇上上がり「2年前に修理人巡教がありました。『何か質問があれば』との事でしたので、本部の先生に直接伺う機会も中々ないので、色々質問させて頂きました。

御供米の扱いやお社の掃除の際のお目標様の扱い、神饌物の事、おさづけの事、おつとめについて等、普段から疑問に思つていた事を細かな点まで訊かせて頂きました。怒られるのではないかとヒヤヒヤしながら聞きました。一つ一つ明快にお答えを頂きました。

その後、話は神江の教会の事に及び、なかなかおたすけ活動に進めない現状に対して『上級へ日参させてもらつてはどうか』とお話を頂きました。私は大教会の120周年が終わつたその日から1年間、一日も休まずに上級の幌向分教会へ日参させて頂きました。

私は現在、会長としての務めと、畑仕事と会社勤めを同時にしております。お道以外の事に心が囚われそうになる時もあります。『今できることがある！』を常に心に置いて、今後も通つて参りたいと思ひます」と話した。最後に齊藤真善・東苗穂分教会長が上がり「先頃起こりました札幌での虐待による死亡事件、



それを受けまして急遽大教会長様から御命を頂戴しました。私は昨今ニュースで対応を非難されている、札幌の児童相談所・東保健センター・中央保健センター、以前この3カ所で奇しくも勤務をしておりました。連日の報道を見て『兎相は何をやっているんだ』と腹を立てている人も多いかと思えます。しかし、実情を申し上げると、まず圧倒的にスタッフの人数が足りません。現状、厚労省の定める必要数の数分の一しかおりません。その一人ひとりが数多くのケースの対応をしなければならぬ状況です。支援の必要な家族に対応するのは並大抵な事ではありません。職員が心身とも疲弊している状態で、今回の事件でのパッシングが生じました。ケースワーカーの中には、大卒卒業後程ない若い人もいます。経験のない若い人が、ニュースに出てくるような父親母親と対応できるか、という課題もあります。電話しても出ない、会ったら怒鳴られる、そんな状況で若い人達が育っていくのか、と

いう心配があります。振り返ってみますと、例えば私の教会がある地域で同じような虐待事件が起きた時『天理教は何をやっているのか』と問われると、言葉も出ないんですね。我が事と思つて考える必要があります。

新生児期の赤ちゃんは睡眠のサイクルが逆で、夜起きて昼寝するんですね。それを知らない、慣れていない若い母親は抑うつ状態になりやすい。そこから虐待に繋がる危険性もあります。ということは虐待を行う可能性は誰にでもあり、今や特別な事ではありません。

一般論で言うところ、虐待に至る母親の多くは、自分の親との関係が良好ではありません。その結果、早くに家を出て、成長が未熟なうちに社会に出る事になります。就職や結婚で失敗しやすいんです。『何故そんな男と』というような男性との関係も、女性にとっては何らかの精神的安定をもたらす存在であり、それを与えられなかった私たちが地域の人間の責任も皆無とは言えません。虐待が起こった時、どうしても『誰が悪いのか』といった犯人探ししがちです。しかしそれは一番やってはいけないことで、『この家族がどういう人間

関係で生きているのか』といった広い視野で考えなくてはなりません。

私達はこの道を通る人間として『おたすけを』という気持ちで、積極的に関わろうとします。虐待の家族と直接に関わりを持つことは難しいのが現状です。家庭内に複雑な人間関係がある場合は、じっくりと時間を掛けて見守る、という事が大事ではないでしょうか。

小学校のPTAの会長を始めから、地域の方々と関わるようになり、知って頂く事も増えました。やはり教会は実社会との関わりを持つて、土地所の寄る辺となるように存在感を示していく事が必要だと思います」と語った。

**婦人会
委員長講習会**

6月20日、大教会にて婦人会委員長講習会が開催され、藤田美重子主任の挨拶の後、参加者25名は3班に分かれて、ねりの時間がもたれた。来年度の婦人会創立110周年記念総会に向けて今までの取り組みを省み、これからのつとめ方についてそれぞれ思いを出し合った。昼食後、決起の集い受け入れ準備として皆で境内地の除草のひのきしんをして散会した。

**婦人会
決起の集い**

去る6月30日、夕張大教会では婦人会創立110周年決起の集いに306名の婦人会員が参加した。(男性スタッフ40人、子供51人) 本行事は令和2年4月19日に教会本部にて行われる婦人会創立110周年記念総会に向けて、道につながるの婦人会員が一同に会し、思いを新たに「一人が二人の婦人会員をご守護いただく」との目標に向かって成人させていただく機会にと、全国各地で実施されている。

当会場では、**亀岡支部長泉としえ先生**のご来会を賜り、ご講話を頂戴した。泉先生は、自らがご家庭内に見せられる“ふし”を通じて感じることを話の台として、人間の親である、親神様、教祖の思いに近づく大切さについてお伝え下された。



末村喜子さん

泉としえ先生

その他には、全国で道の御用に励む婦人会員の紹介映像や、婦人会員2名による感話が行われ、(うち一名は**峰延所屬、末村喜子さん**)それぞれが様々な立場の中で信仰によって勇み立つ姿や助けられた体験について見聞きする中で、改めて信仰の喜びについて感じる機会となった。

また運営には南空知支部婦人会を中心に、支部青年会、そして大教会婦人会、青年会などが連携し、受付、会場案内、駐車場、接待などの御用に当たった。運営にあたったスタッフは、その勤めの中に来場者に喜んでいただきたいとの真実を込めることで神様にお受け取りいただき、一人でも多くの会員がおちばへ集うようにとの思いを一つに、真心を込めてつとめた。



婦人会 女子青年のつどい

6月22日10時より大教会にて女子青年のつどいを開催した。10時神殿にて座りづとめをつとめた後、奥様よりお話を頂き、女子青年担当、委員長それぞれ



婦人会 ひなの会

6月23日(日)第10回ひなの会が鼓笛練習会と同時開催され、スタッフを含め14名の会員とひのきしん者6名、子供18名が集まった。

始めに奥様よりひなの会の成り立ちから婦人会長様の思いを聞かせて頂き、会活動を通して成人させて頂けるようにと話された。

午前中は神殿の周りの窓拭きを皆で勇んで楽しくひのきしん

庶務部 6月

- ▽修養科⁹³期修了
- 西尾 仙貴(幌向) 6・27
- ▽おさづけの理拝戴
- 中島 望愛(峰延) 6・2
- ▽青年会ひのきしん隊6月隊
- 6・1 30
- 岩佐 祐太(志加ノ谷)
- 河本 佳朗(梅伊達)

大教会日誌抄 6月

- ▽ひのきしん
- ・詰所清掃
- 矢野 宏信 6・23
- 矢野 明子 6・23
- ・詰所炊事
- 山根ふじの(善進道) 6・25 26
- 2日 ひきよせ大会準備会議
- 6日 会長、岩見沢で全道教誨師研修大会(7日)
- 7日 支部組例会
- 8日 夕張団鼓笛隊、北海道大行進パレード
- 11日 会長、おちばへ
- 13日 会長、おちばより帰会
- 14日 祭典準備
- 15日 月例会
- 16日 会長夫妻、峰延分御霊祭へ
- 20日 婦人会・委員長講習会
- 22日 教職舎・陸屋根工事(21日) 会長、おちばへ
- 23日 女子青年のつどい
- 24日 ひなの会、鼓笛練習
- 26日 三代真柱様五年祭 会長、本部神殿当番
- 27日 会長夫人、おちばへ
- 28日 本部月次祭、遙拜式 会長、かなめ会
- 30日 会長夫人、帰会 会長、おちばより帰会
- 婦人会
- 会員決起の集い会場

2019年ひきよせ大会
チャリティバザー
9月22日(日) 11時~14時
『家族ぐるみで教会へ参拝しよう』
『地域社会へ教会を開こう』

夕張信者受付：9時 受付 10時 開会
・よろづよ八首を総立ち
・大教会長挨拶
・各部各店準備
・11時 チャリティバザー開始

屋外ステージではブラス演奏や歌、抽選会。屋台には教内からヤキトリ、シウマイ、うどんなど。一般店舗より新篠津スイーツ、有名インドカレー、どさんこワイド出演の星澤雅也氏のヤキソバ販売など軒を連ねます。屋内では暮らしのお悩み相談やフリーマーケット、落語、納棺士実演など盛りだくさんの内容！ぜひご家族でご来場して楽しんで下さい。

昨年までの神殿、付属屋の屋根工事が終わった時点で、前回の塗装から25年たつて屋根や壁に痛みが出ていたので、陸屋根の教職舎3階、2階会館の補修工事に具体的にかかろうと、5月

大教会・教職舎、壁塗装、陸屋根修繕工事について

最後に記念写真を撮り、来年の婦人会総会創立100周年には新しい会員と共におちばがえりできることをお互いに願いつつ散会した。

昼食を挟んでフリートークの時間ももたれ、「自分もなにか挑戦してみよう」「異なった立場の人の話が聞けて良かった」などの感想が聞かれた。



その後、7月9日の壁塗装用の足場撤入から、業者の指導を受け、ひのきしんで作業は進み、8月に終了の予定。怪我なく作業が進むように、祈ります。